

### CONTENTS

森稔君のASIA BUSINESSMAN of the YEAR 選出を祝う	1
湘南学園同窓会新会長就任	1
「出逢い☆ありがとうライブin湘南チャリティコンサート」を後援して	2

学園に寄せる想い〜「過去から現在、未来へ広がる学園の歩み」展へのメッセージ〜	3〜5
蘇った58年前の作文	5
同窓会事務局からの報告・お知らせ	6

### 森稔君のASIA BUSINESSMAN of the YEAR 選出を祝う

中学1期生森稔君が、FORTUNE 2007 ASIA BUSINESSMAN of the YEAR に選ばれた。FORTUNE は世界最大の英文ビジネス誌で、120カ国数百万の国際派ビジネスマンが読んでいるといわれる。毎年、優秀企業500社のランキングを発表したり、最も注目すべき企業家を Businessman of the Year に選出することでも知られている。2001年以降アジアの Businessman of the Year には、めざましい成長遂げるインドのIT企業や中国の家電メーカーの経営者などが選出されており、日本からも日産自動車のカルロス・ゴーン、トヨタ自動車の張富士夫、キャノンの御手洗富士夫の3氏が選ばれている。

森君の受賞がとくに喜ばしいのは、選出の理由である。経済誌が発表するランキングには、FORTUNE と並ぶ権威のあるFORBESの世界長者番付がある。こちらの財力の順位で、たまたま時を同じくして森トラストの森章氏が今年の日本人長者番付第1位に選ばれている。2誌それぞれの選出が、リスクがあっても夢を追う森稔君と堅実を信条とする章氏との、対蹠的な経営理念を見事に反映しているのは興味深い。

森君の受賞を報じるFORTUNEの表紙には、Mori's Moment ; Asia's Boldest Developer, Minoru Mori Reaches for the Sky, With a 101-Story Shanghai Tower と記されている。Mori's Moment とは、「森稔に時機到来」といった意味であろうか。天安門事件からわずか4年後、経済体制が異なる中国を相手に上海の再開発に乗り出し、空まで届かんばかりの高層ビルを建てるというあまりに大胆な計画には、危惧と批判が集中した。しかし森君は時代を見据え、実際に襲いかかった内外の様々な経済的悪条件を乗り越えて101階の上海ワールド・フィナンシャル・センターを竣工させた。FORTUNE誌が評価したのは、高層化して土地の高度利用を図り、地上を人と自然に開放して職・住・文化が一体化した緑豊かな垂直庭園都市を建設する、という森君の再開発ビジョンと、その実現への執念である。

湘南学園在学当時、藤沢の街を広告取りに走り回りながら同人雑誌を出していた森君は、なかなかの文学的才能の持ち主であった。去年の正月、NHKラジオ番組のために久しぶりにゆっくりと語り合った時、彼は「紙に書くのは諦めて、まだ当分、大地に作品を書きつけよう」と言った。

多くのリスクをすり抜けて到来したMori's Moment が、「森稔の瞬間」で終わることなく、世界の都市に彼の夢が実現する「森稔の時代」が来ることを祈る。

鈴木健次（中学校第1回卒業）

### 湘南学園同窓会新会長就任

今般、事情から空席でありました「湘南学園同窓会」の第4代の会長職をお引き受けした佐藤允です。よろしくお願ひします。私は、今年創立75周年を迎える「学園」とは65年程以前から、「3丁目の夕陽」の如くセピア色の記憶の中で、小学校から中学校の9年間お世話になっております。

昨年の10月、日本経済新聞の「私の履歴書」に同期の青木昌彦君（スタンフォード大学名誉教授）が「当時の“学園”はリベラルで伸び伸びした教育で、良き師、良き友に恵まれ、素晴らしい青春時代を送らせて頂き感謝しています。」と記していましたが、まさしくそのとおりで、個性溢れる卒業生多数。

現在、学園の同窓会員は、幼稚園から高等学校まで会員1万6千名を超え、「FORTUNE (January 21, 2008)」の表紙を飾った森稔氏（中学1回卒業）などの実業界をはじめ、芸能、音楽、芸術、スポーツ、医学、教育、法曹等の各分野に活躍するリーダーを輩出し、今や同窓生黄金時代といっても過言ではありません。

しかし、同窓会としての組織化が希薄で、各クラスあるいは学年単位でのクラス会は開催されているものの、学年を飛び越えた縦のまとまったパワーによる学園へのサポート力とはなっていないのが、残念ながら現状です。そこで、今年、創立75周年記念の年を再スタートに同窓会の組織・活動の活性化を図ろうと常任幹事会で色々な事業企画をしております。同窓会会員の皆様のご理解、母校愛からのサポートとともに、学校法人湘南学園の理事長をはじめ、園長先生、教職員の方々のご協力がなければ実現いたしません。——ここに、協働による「学園力」を高め、名声を挙げる鍵があると信じております。

今日から同窓会改革が始まる。是非、興味と関心を「湘南学園」にお向けくださいますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご多幸とご健康をお祈りいたします。

湘南学園同窓会 会長 佐藤 允

#### 佐藤 允氏のプロフィール

昭和24年度湘南学園小学校第16回卒業  
昭和27年度湘南学園中学校第4回卒業  
昭和31年度神奈川県立湘南高等学校卒業  
昭和35年度早稲田大学第1法学部卒業  
職歴：富士ゼロックス（株）

（現）タカラトミー（株）等勤務  
在学中の部活動：ブラカド部・テニス部  
座右の銘：「一期一会」

“Happy Go Lucky”  
趣味：ゴルフ・テニス・読書・グルメ  
好きな歌：「男の背中」



## 「出逢い☆ありがとうライブ in 湘南チャリティコンサート 平尾昌晃と共に！」を後援して

2007年11月13日(火)、藤沢市民会館大ホールにおいて、「出逢い☆ありがとうライブ in 湘南チャリティコンサート 平尾昌晃と共に！」が開催(平尾昌晃氏(中学校第4回卒業)が理事長をつとめるNPO法人ラブ&ハーモニー基金と学園の同窓会常任幹事を含む実行委員会の共催)されました。このコンサートは、「SEASIDE VOL.14」でお知らせいたしましたが、藤沢市をはじめ、(社)藤沢市社会福祉協議会、藤沢商工会議所、藤沢三田会、学校法人湘南学園の後援を得、お年寄りや障害者、その介護者、協賛者、約1,200人の方々をお迎えし、「音楽を通して感動・勇気・元気」溢れるコンサートとなりました。開催にあたっては、学校法人湘南学園のご支援とともに、当日の会場運営のボランティアとして、大勢の同窓生並びに湘南学園PTAの方々にご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。このコンサートは、同窓会事業にあって社会活動の一つとして試行的に実施いたしましたが、今後、いろいろな事業企画をして参りたいと考えていますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。今回の事業報告にあたって、次のとおり、湘南学園理事長中川一省氏をはじめ、PTA会長田辺真理氏、平尾昌晃氏からのメッセージをいただきました。

### 「ウェルカムホーム」平尾昌晃さん！

中川一省(湘南学園理事長)

学園同窓生の平尾さんには、この誌面をかりて、あらためて御礼申し上げなければならないことがございます。ひとつめは、本学園創立七十周年の節目に、記念曲「～夢に向かって～」を提唱、作曲していただきましたこと。この曲の作詞は、平尾さんの申し出により、平成十六年の在学生全員の学園へのさまざまな想いを平尾さんにまとめていただいたものですが、2つめは、平尾さんの33年間の福祉活動を通じて、湘南学園の建学の精神である「社会貢献」を世に顕現し続けてくれたことです。そしてそこに、今回、母校を参加させていただいたことは、湘南学園にとりましても、大変名誉なことと感謝しております。3つめは、70歳になられるまで、ずっと学園のことを愛し続けていただいたこと。そして、同窓生との和をこの上なく大切にされていたことです。本当にありがとうございました。最後になりましたが、平尾さんと共にご尽力いただきました学園同窓会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

### 湘南学園は永久に！

田辺真理(湘南学園PTA会長)

「僕は〇〇回生です！」湘南学園同窓生も大勢ボランティアで参加されて、まるで同窓会のような「出逢い☆ありがとう湘南チャリティコンサート平尾昌晃と共に！」の会場でした。私は同窓生ではありませんが、勿論子ども達は学園っ子です。PTA活動を通じて、同窓会会長に就任された佐藤さんには、近隣7自治会と学園とのコラボレーションでも大変お世話になっております。そんなご縁から、チャリティコンサートの実行委員会にお誘い頂いて、大変貴重な経験をさせていただきました。

実行委員の中にも同窓生が多数おられ、集まると必ず学生時代の懐かしい話から、いかに自分が学園を愛しているかという思いが伝わり、私も負けじと学園談義に花咲かせました。

PTA合唱サークル「ル・レーヴ」としても参加させて頂き、平尾さんが湘南学園創立70周年記念曲として、作曲して下さった「夢に向かって」(学園中高生作詞)を披露しました。平尾さんの気さくなお人柄、優しさに大変感銘を受けました。コンサートが大盛況に終わったことは言うまでもありません。

### みなさん本当にありがとう！

平尾昌晃(中学校第4回卒業)

ふるさと湘南で、手作りで心あたたまるチャリティコンサートを開催できたのは無上の喜びであり、我が人生において生涯忘れることが出来ません。湘南学園中学二年在学中に藤沢の“東京養老院”を慰問して以来、長年に渡りチャリティコンサートや障害者の音楽活動支援を行って参りましたが、特に今回は高嶋浩・佐藤允くんを筆頭に実行委員会を設立して、多額の協賛金を募っていただきました。地元藤沢市をはじめとして、社会福祉協議会、商工会議所、湘南学園、そして昔父が会長を務めたことがある藤沢三田会、その他にも数多くのご協力を得ることが出来たことに対し厚く御礼申し上げます。特に僕の同級生の友人たちが本当によく尽力くださいました。そして、我々の恩師、桜庭行先生ご夫妻にもご来場頂き感謝しております。「湘南はいいなあ・・・湘南学園で学んだからこそ今日があるんだ！」コンサートの帰り道、みなさんの嬉しそうなお顔を拝見し、つくづくそう感じながら家路につきました。

みなさん本当にありがとう。



コンサートのプログラム表紙



コンサート終了後、桜庭行先生を囲んで

## 学園に寄せる想い～「過去から現在、未来に広がる湘南学園の歩み」展へのメッセージ～

第57回学園祭（テーマ「WAVE～オレ等はいつでもオールMAX～」）が、2007年9月29日（土）、30日（日）に開催され、同窓会も昨年度に引き続き、参加（「過去から未来に広がる湘南学園の歩み」展開催）しました。両日ともに、同窓生を含む大勢の来室者を得るとともに、数多くの同窓生からメッセージが寄せられましたので、ここにその一部をご紹介します。

### 過去は遠くない

中村美恵（小学校第6回昭和14年度卒業）

一枚のハガキを郵便配達人から受け取って見た瞬間、驚きと喜びが私の体の中を走った。差出人は小学校時代の担任の宗先生！。私が卒業してからなんと四十七年の歳月が流れて、訪問する機会は無く、先生が今、学園にいらっしやると知らなかった。しかも園長先生でいらっしやる！。

私が『さいはてのふだん記』16号に書き、『日本随筆文庫全集』2にも載せた「松ぼっくりー私の小学校風景ー」を、宗先生は読んで下さったのだ！。遠い遠い過去の懐かしい楽しい小学校生活を描き、担任の宗先生が花嫁さんを迎えてクラスの子供たちがお祝いに大騒ぎしたとか、授業の合間の休み時間に先生のひざに乗ったとか・・・などなどを書き並べたのを。この本を私は「湘南学園」宛におくった。すぐには返事がこなかった。卒業してから五十年近い年月が経ったのも、私を知っている人は学園にもういないのだろうと思い—それきり忘れていた。

今日、このお便りを手にし、先生の筆跡を見つめているうち私は急に、「過去は遠くない」という気がしてきた「過去」は現在に連なっているのだ・・・。

先生は私たちが卒業して長く経っても、ちゃんと学校にいらっしやる。あの若き日のクラス担任の顔でなくて園長先生の顔になって・・・古い卒業生がいつ訪ねても迎えて下さる・・・。そう考えたとき、ほっと安心して“ここにも私の故郷がある”と感じた。

おはがきに“学園の昔の面影は全然ありません”と書かれていた。建物はすっかり変わっているだろう。私がいたところは幼稚園と小学校があるだけで、児童数は百名そこそこだった。現在は中学と高校が併設され、全校で千九百名だそう！。たいへんな変わりようだ。しかし宗先生がいらっしやるなら、私にとって昔のままの湘南学園だ。

最近、教育は荒廃しているのではないかという声をテレビで耳にした。私は思う。教育って何だろう。教育って難しい学問を詰め込むことではない。「心のふるさとを一つ多くつくってあげることはないだろうか。（一九八七年九月）

「小学校の思い出」随筆風「自分史」より



展示会場風景

### 学園生活6年間で、現在の私の人間形成の基礎

伊藤 等（中学校第16回・高等学校第16回昭和42年度卒業）

現在、日本大学薬学部（教養系薬学教育所属、専門は地理学・地図学）に勤務しています。薬学部で地理？と思われるでしょうが、確かに、全国の薬学部・薬学科に属する教員の中で、“地理学・地図学”を専門としている教員は唯一だと思えます。従って、学部内ではかなり“自由人間”的に行動していると自分では考えています。私が通学していた頃の学園は、中学生の夏の補習期間では、ねずみ色・灰色のズボンでの登校が許可されたり、ビニールに包まれた紙袋（書類入れ）を靴代わりとして可能でした。これは一例ですが、多くの場面でかなり“秩序ある自由”があった様な気がしています。

また、中学・高校共に夏休みに宿泊旅行があり、赤目四十八滝・伊賀上野・伊勢神宮方面、那須・塩原方面、野尻湖キャンプ、等々、冬休みにはスキー教室、中学の修学旅行は東北一周、高校は1泊1日の九州一周と連れて行って頂きました。これが、大学受験の際に、地理学科を選択した影響力の一つではないかと考えています。

この様なすばらしい学園の“秩序ある自由”な空気の中で育った6年間という時間は、その後の人間形成に大いなる影響力を及ぼしたと考え未だに誇りに思い、御指導頂いた恩師には深く感謝しています。

昭和49年5月から昭和56年3月まで「地理」の非常勤講師として、勤務させて頂きました。

現在は、6年制薬学教育の世界にいますが、薬剤師を取り巻く状況は大きく変化しています。医療人の一員として医師・看護師と共に一体となって病人・怪我人とのコミュニケーションをとりながら治療の一端を担い、また、特定の病気に対する専門薬剤師の要請など、以前にも増して医療現場でのかなり重要な位置を占める様になって来ています。この様な中で、地理学を専門とする私は、薬剤師になるための資質（「人の歩み」授業）や周辺領域の知識（「文化地理への招待」、「環境と災害」授業）を習得してもらう様にしています。

薬剤師を志す学園生の方のために何らかのお役に立てれば幸いです。

今後の学園の益々の発展を祈念いたします。



懐かしの学校行事コーナー

## どこに消えたのか？湘南学園高校生の歌

内山 光明（高等学校第3回昭和29年度卒業）

私は湘南学園高校の3期生（3回生）である。入学は（正しくは進学、幼稚園からと天だから試験はなかった）昭和27年、1952年である。1年在学の半ば3年生（1期生）の間に高校生の歌を作ろうという動きがあった。この辺の事情は高校1期生の人の方が詳しいであろう。湘南学園校歌は皆様ご存じの宮下正美園長の作詞作曲（作曲は実は音楽の小川先生の採譜によるもので大分修正されたと思う）の“持とうよ歌をくちびるに・・・”である。その前の校歌は小学校だけのときの“波路るけき相模灘・・・”というやや格調の高い小学生には一寸難しいものであったし歌詞が当時の世相を反映してやや軍国調であった。

宮下先生が、幼稚園から高校まで歌える校歌ということで頭をひねられたものでそれなりに素晴らしい内容である。新旧両校歌は新しい名簿に収録されている。

それでも高校生の間では、“持とうよ歌を・・・”は何となく子供っぽいやという思いがあった。そんなことはまずあり得ないかもしれないが、野球部が甲子園に出て勝ったとき、“持とうよ歌を・・・”ではなんとなく思ったわけではないであろう。ともかく、そこで高校3年生の確か野口元義氏が作詞、国語の友野代三先生が監修されて次の歌が出来あがった。作曲は覚えていないが多分生徒が作り、音楽の先生が専門的に直されたのであろう。これも何方か覚えていれば教えていただきたい。

譜面も歌詞も無いので、内山の記憶だけである。間違いがあれば訂正していただければ幸いである。

この歌良く歌ったものだが、現代ではやはり前時代的なにおいがする。旧制高校寮歌に近いかもしれない。何となく忘れ去られてしまった様だが、湘南学園高等学校歴史の一ページとして残してほしいと思筆を執った次第である。

### 湘南学園高校生の歌

1. 松のかげ踏むあさぼらけ、草つゆ清きこの丘よ  
諸手（もろて）にかかぐ紺青（こんじょう）の、  
知恵と望みに燃えたつる  
我が学園旗のぼりたり。  
ともよ、いざ共に仰げ、この紺青（こんじょう）を、  
われら湘南学園高校生。
2. かがよう光背に浴びて、磯路（いそじ）に望む富士がねよ  
たぎる血潮はわだつみの、遠き思いに通いつつ  
わが若きみち歩むかな  
ともよ、いざ共に登らん、この砂丘（すなおか）を  
われら湘南学園高校生。

### 追記

旧学園歌、持とうよ歌を、そしてこの松のかげ踏む、に共通していることは“松”と“海岸”と“富士山”です。素晴らしい環境にあった昭和初期から戦後10年までの古き時代から現代につながる、湘南学園の良さを表しているものと思います。

## 同じ学舎・心の風景

川之辺 繁

（小学校第13回・中学校第1回・高等学校第1回昭和27年度卒業）

私は、東京大空襲で家を焼かれ、学童集団疎開で草津の旅館での勉強、そして第2次大戦の終戦前に片瀬に引っ越し、やがて湘南学園に小学5年生で入り、中学一期生高校一期生として学んだわけでありませぬ。

もう随分昔の話になりますが、もちろん木造校舎が常識でした。その後、木の香も新しい新校舎、またグラウンドの拡張、A地区、B地区へ移った時の生活のことを今も鮮やかに思い出すことができます。

本校を取り巻く環境も、自然の風景も変わりましたが、私たちのアルバムに刻まれている心の風景は変わりません。例え、学んだ時代は違っても、同じ学園で学んだという不思議な因縁は、見知らぬ者同士を妙に身近な存在として結び付けてしまう魔力を秘めているようです。

私の目に浮かぶ校舎は古ぼけた木造校舎ですが、その中で先生との美しい触れ合いから、私達は新しい教育の香気のようなものを感じとったものです。2004年に立派な中高校舎が完成いたしました。新しい校舎の中で、新しい中身を創り出してください。皆さんが学園の輝かしい伝統を守り、この新しい校舎の中で一層実りあるものとなることを願ってやみません。

「さわらび会」という演劇活動がありました。顧問として当時の宮下正美園長、作家の永井竜男氏、松竹映画監督の大庭秀夫氏にお願いしてました。私達は年齢差のある学生でしたが、何事にも共感しあう同志でした。養老院、秦野国立療養所、鎌倉第一小学校で演劇公演をし、昭和25年～30年代にのめり込んで活動していました。現在でも、当時の仲間とゴルフをしたり、お酒を飲んだりと続いております。

中・高の同窓会を年1回開き、食事を共にしながら昔を偲び、時に童心にかえり思い出話に花を咲かせており、出席の方々と逢うことにより意味深いものになっています。皆、楽しそうに話に参加されています。

又、“湘友会”という平塚を中心とした母校を卒業した有志たちの集まりもあります。斎藤先生、寺田先生、加藤先生を囲んで年2回集まります。学園で過ごした時代が違っていても、それぞれの若い時の歴史を思い出させてくれます。これらのアルバムには沢山の風景がいっぱいつまっています。



校外授業・海岸にて

## 蘇った58年前の作文

紙面の都合により、4人の同窓会会員の方のメッセージを紹介させていただきましたが、このほかに学園へ寄せる想い、在園中の思い出、同級生への思い、近況報告など、次の方々からメッセージをいただきました。ありがとうございました。

海老澤健次氏

(小学校 第13回 昭和21年度卒業)

齋藤 登氏

(小学校 第14回・中学校 第2回 昭和25年度卒業)

関家 憲一氏

(中学校 第4回 昭和27年度卒業)

津田 悠子氏

(中学校 第6回・高等学校 第6回 昭和32年度卒業)

立川 元彦氏

(小学校第20回・中学校第8回・高等学校第8回 昭和35年度卒業)

鈴木 憲男氏(高等学校 第18回 昭和44年度卒業)

加藤 博久氏(幼稚園48回・小学校53回・中学校41回  
高等学校 第41回 平成4年度卒業)

古澤政子(小学校第6回昭和14年度卒業)さんからは4頁・5頁掲載の写真をはじめ、在園中の思い出の数多くの写真を同窓会へご寄贈いただきました。

同窓会では、今後、湘南学園に関する資料を収集して参りたいと考えています。会員の皆様の中で、在学中の写真をはじめ、文集、校章バッチ、運動会のメダル等学園に関わる資料をご寄贈いただける方は、同窓会事務局まで卒業年度・ご氏名明記のうえ、ご郵送ください。



算数の授業風景



ストーブを囲んでのお弁当の時間

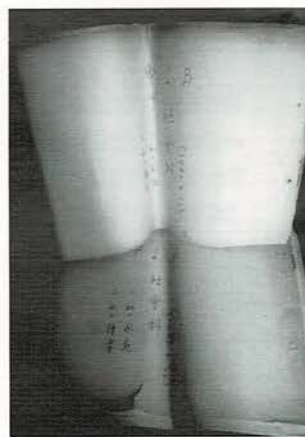
三宅川 崇(中学第4回・高等学校第4回昭和30年度卒業)

或るきっかけから、中学1年の時社会科学の授業を担当された鶴岡正巳先生が、当時の私達A B両組約70名の書いた「私の家族・私の読書」と題する作文を保存しておられることを知った。

毎年開いているクラス会で披露できたら素晴らしいと考え、先生から現物を送っていただき、コピーをとるべく一枚ずつ開けようとしたが、なにしろ作文は昭和25年4月11日付、当時の粗末なワラ半紙の綴じ込みである。一部は茶色に変色していて下手にいじたらばらばらになりかねない。とても私だけでは手に負えず、昨年12月初めに当時のクラスメート8人に集まってもらい、みんなで丁寧に整理し、専門家の富岡君の活躍もあって3時間かかりで何とか無事コピーが仕上がった。特に苦勞したのが緑のインクで書かれた平尾君や、薄い鉛筆の佐藤(松崎)さんや宇津木(川津)さんのもの。再生作業をしながら我々の頭の中は懐かしいあの時代にタイムスリップして行くのだった。

オリジナルを先生にお返しするにあたり、去る2月1日神田の「学士会館」で昼食会を開き、感激の58年ぶりの再会となった。山下君が先生のお顔を覚えているというので談話室でさがしたが全く分からず、お会いできた先生は想像していたとは大違い、あまりにお若くお元気なので、一同吃驚してしまった。それもその筈、先生学術書や医学書で著名な出版社「学生社」を経営する現役バリバリ。先生は昭和22年東大法学部を卒業し出版社経営の志を持って準備している時、知遇を得ていた故友野代三先生の懇請を受け、湘南学園で一年間の約束で我々の中1と内藤さんや牛込さん達の中3、寺田さん井上さん達の高校第一期生の社会科学を担当された由。教員資格はもっていたものの生徒達とどう接してよいかわからず、一人一人がどんな人間か知るために三学年共通の題で書かせたのが本題の作文で、それで私蔵されたのだが、2年前に奥様を亡くされ、数年前一戸建てから現在のマンションに引っ越した際、古い机の引き出しから三学級分の作文の束が出てきた。陽の当たらない場所に保管されていたことが幸いし、何とか原型が保てたといえるのだ。

偶々数年前、ロータリークラブの集まりで同席したのが牛込先輩。名前に記憶があった先生からもしやと呼びかけて久闊を喜び合い、作文の所在が明らかとなった。我々の2年先輩のク



58年前の作文

ラス会「悪童会」に先生が出席される等交流ができ、牛込さんから佐藤允君に「君達のもあるよ」と教えられたことが発端である。

さて懐かしく楽しい会食を終え、先生をお見送りし各自三々五々別れたが、その後佐藤、高嶋両君に奇縁が続くことになる。

ひとつは、彼らが夕食を共にした白百学園時代の旧友にこの話をしたところ、旧友氏の父君の著作が以前学生社から出版され、その縁で組み紐教室にお元気だった頃の鶴岡先生の奥様が通われたり、その他いろいろ交流があることを知って両君はびっくり。

さらに、帰りの湘南電車の同じ車両に、きっかけを作った下さった牛込先輩が乗っておられ、二人でこの日の報告をすることができ、メダシメダシの一日を送ったとのことである。

作文のオリジナルは、今年75年迎えた湘南学園の歴史的資料のひとつとしたいという、藤岡園長の要請に鶴岡先生が快く応じて、近く寄贈される運びとなっている。



鶴岡先生と教え子 2008年2月1日於：学生会館

## 同窓会事務局からの報告・お知らせ

### 平成18年度同窓会会計報告

平成18年度(平成18年4月1日～平成19年3月31日)の収支について、次のとおり、報告します。ご承認いただきますようお願い申し上げます。

#### 【収入の部】

単位＝円

科目	金額	内訳
前期繰越金	4,579,050	
入会費	258,000	36人×6,000 14人×3,000
年会費	1,254,000	627×2,000
名簿代	337,500	75冊×4,500
雑入	1,902	預金利息
今期収入計	1,851,402	
収入合計	6,430,452	

#### 【支出の部】

単位＝円

科目	金額	内訳
事業費	1,061,828	会報印刷
	684,450	会報送料
	239,294	学園祭関係費(生徒会への寄付含む)
	56,256	卒業記念品
事務費	37,973	同窓会事務運営費
通信費	192,729	
会議費	8,318	同窓会常任幹事会賄料
今期支出計	2,280,848	
次期繰越金	4,149,604	
支出合計	6,430,452	

### 平成19年度卒業生への記念品贈呈

今年度は同窓会より、幼稚園から高等学校までの卒業生(528名)に卒業記念品としてデジタル卓上時計を贈呈いたしました。

### 会費納入のお願い

今回納入いただきます年会費は、平成19年度分です。納入にあたっては、通信欄にお名前(旧姓)・卒業年(幼・小・中・高校)・ご住所を明記ください。ご住所並びにご氏名の変更につきましても、通信欄にご記入ください。

同窓会の財政状況が年々厳しくなっております。  
一人でも多くの方の会費納入をお願い申し上げます。

### 同窓会事務局の所在地

平成19年度末から、同窓会事務局の所在地については、次のとおり、学校法人湘南学園内に戻りました。

〒251-8505

藤沢市鶴沼松が岡4丁目1番32号 TEL 0466-23-6611

### 平成20年度事業計画

今年、平成20年は、湘南学園創立75周年の年です。同窓会といたしましても、新会長の就任を受け、新常任幹事の選出を図り、同窓会ホームページの更新、創立75周年記念特集号「SEASIDE」の発行、アンケート調査などを予定し、新規事業の企画・検討を進めています。同窓会活動にご支援いただけるサポーターを募集していますので、同窓会事務局までお申し出ください。なお、具体的な事業内容・開催日時等の詳細については、決定しだいホームページ等でお知らせいたします。